

## 平成26年度全国安全週間 社長安全パトロール実施される

戸田建設（社長：今井雅則）は、全国安全週間の初日にあたる7月1日、「京成曳舟駅前再開発作業所」（東京都墨田区）の安全パトロールを実施しました。社長自ら作業所の安全点検を行うことにより、安全衛生管理の重要性を全職員及び協力会社に発信するものです。

安全パトロールにおいては、まず毎日の安全施工サイクルの基本である朝礼に出席して「ラジオ体操」に始まり、安全当番による当日の立入り禁止箇所等の作業間連絡調整と安全指示事項の伝達の実施状況を確認しました。作業所長が、安全週間の趣旨を説明し、週間活動計画を説明、職長会の会長が作業員を代表して安全への取り組みについての安全宣言を行いました。

社長は安全講話において、安全を守ることは当たり前のことであり、何事にも『実効ある活動』が必要だということを強く話をしました。作業所のあるべき姿として「作業所で働く人同士が仲間意識を持つことができ、誰もがプライドを持って働ける環境」が基本であり、その上で安全面については「法令及び作業所の決まりを全員が守ること」、「危険箇所や安全を阻害する状況が点検され、報告され、直ちに改善が講じられること」、「一人ひとりが自分の身は自分で守ること、危険への感受性を高めること」、併せて、作業員の方が「自分自身の価値を高めること」、つまり効率性、安全に優れ、高いレベルの品質を確保した仕事を提供することを目指していただきたいと熱く訴えました。

続いて行われた作業場の安全点検では、安全衛生方針で謳った『危険ゼロ』の状態が維持されているか、特に開口部に対する災害防止対策が確実に計画・実施されているか確認しました。また、女性の活躍の場を広げるため、女性社員もパトロールに参画し、女性の目で建設現場を確認しました。女性社員は、これからの作業現場では女性用のトイレや更衣室の整備は必要不可欠であること、そこで働く女性の意見を聞いてほしいことを訴えました。

社長は、建設現場であっても、女性が安心して働ける職場環境を整備すること、周りの誰が見てもかっこいい現場にすることで、そこで働く人たちのモチベーションをアップし、社会に対して建設現場の魅力をアピールすることが重要だとも訴えました。



写真1 朝礼で挨拶を行う社長



写真2 作業場内の点検